

## Q1.「ある」との回答 …(SQ.1の担当部署の「その他」の回答)

- ボランティアに関する照会・協力依頼の内容によって担当部署が決定されるため。
- 現在まで実質的に業務を行っていないので明確でない。現状で担当するとすれば、学生課の職員で文化系課外活動担当者が兼務で担当する。
- 学生課の職員が学生厚生補導業務の一つとして掲示板に掲載する程度
- 学外からの照会、協力依頼については、学生生活課で受け付けている。
- ボランティアセンターを立ち上げる予定だが、現在準備中であり教員の中で担当を決めて対応している。
- 組織名としてはないが、学生課が学生厚生補導業務として兼務している。
- 学生生活課が他の業務と兼務している。
- 窓口は学生課だが、担当している者は教員。
- 担当部署はないが、学生生活支援課が窓口として扱っている。
- 学生部長(教員)が直接担当している。
- ボランティアの内容により担当部署を設定。
- 教育学科教授及び学生課
- ボランティア活動を支援する明確な窓口はないが、厚生補導の一つとして学生課が担当している。
- 事務局総務グループで窓口として対応。
- 担当教員が対応
- 事務所で受け付け、ボランティア部顧問教員が対応。
- 本学ではボランティアに関する情報・提供を同系列の大学にて一括して照会し、対応している。なお、短大では大学で照会している情報を学生に提供しているのみである。
- 学生委員会メンバーの教員が担当
- 担当教員1名のみ(部署なし)
- 特に部署はないが、ボランティアクラブ顧問等が対応。
- クラブ顧問
- 福祉関係のボランティアのみ「社会福祉実習指導室」が対応している。
- 担当部署はないが、教員が調整担当となる。
- ボランティア同好会顧問
- 職務として明示されていないが、学生厚生補導業務のひとつとして学生課学生係がボランティアも担当。
- 一定の条件を満たせば単位認定をするので、担当部署としてではなく単位認定窓口のとらえ方をしている
- 担当する係を特に設けていないが、対応する場合は、事務局(学生係)が行っている。
- 学生生活支援を担当する部署が業務のひとつとして担当
- 学外よりボランティア募集ポスター等の掲示依頼が来た場合には学生部掲示板に掲載している。
- 学生生活課として、サークルへ連絡する程度。
- 特に担当部署はないが、ポスター等は学生支援センターで貼っている。
- 特定の部署があるわけではなく、様々な部署または教員がその都度対応している。
- ボランティア活動を個人的に長く続けている教員が学内のボランティア係として任命されています
- ボランティアの募集を受け付け、学生に情報を提供している。
- 資料・掲示物等を配布・掲示する程度。
- 所轄は学生課であるが、他に教員及び学生と共に対応している。
- 教務部(担任指導)
- ボランティア活動論を担当する教員が担当している。
- 協力依頼は受けるが企画運営はしていない。この他、各教員が直接依頼を受けるものがあり、それについてはその担当者が直接対応する。
- 学生部職員が学生厚生補導のひとつとして担当。
- 学事部学務課で受付後、各学科担当教員が学生へ照会
- 学生課の職員が学生厚生補導業務のひとつとしてボランティアも担当
- 教務部(特別単位認定)、諸資格指導室(障害児学級ボランティア派遣)
- 依頼の内容に応じて各学科または事務サイドで対応
- 学生主事室及び学生課にて対応している。

## Q2.「ある」との回答 … (SQ.1の学内における担当部署で「その他」の回答)a.b.c以外の担当部署

- 全学的ではないが、関係授業科目の一環で担当教員が実施。
- 現在まで実質的に業務を行っていないので明確でない。現状で担当するとすれば、学生課の職員で文化系課外活動担当者が兼務で担当する。
- 主担当教員の他に、ゼミを担当している教員が、情報提供及び相談に対応している。
- 学生生活課で情報の提供程度はしている。
- 窓口は学生課だが、担当している者は教員。
- 授業科目を担当する教員が授業に関連するものについて窓口となっている。その他事務部において情報の掲示のみ行っている。
- ボランティア支援室を学生課に設置しているが、職員は学生課の職員が兼務している。コーディネーターはボランティア協会から派遣されている。
- ボランティアの内容により担当部署を設定。
- 教育学科教授及び学生課
- 担当教員が対応
- ボランティア部顧問が対応。
- 学生委員会の委員1名(教員)が担当。
- 担当者が情報提供・相談を行っている。
- 部署はないが、必要に応じて対処している(学生課等)
- 事務部において、情報の掲示のみ行っている。
- 学生委員会メンバーの教員が担当
- 部活動としてやっている。
- ボランティア担当
- 教務主任とボランティア関連科目の主担当者が担当。
- 担当部署はないが、教員が調整担当となる。
- 学生支援課が窓口となっているが、該当クラブ顧問に一任している。また、学外団体より直接依頼を受けた教員が掲示板等で希望者を募っている。
- 単位認定に関わる部署と考えている。
- 関心ある教員を中心として
- 学生生活支援を担当する部署が業務のひとつとして担当
- 特に担当部署及び担当者は設けていない。ボランティア募集の依頼があれば、事務局において掲示する程度
- 特定の部署があるわけではなく、様々な部署または教員がその都度対応している。
- ボランティア情報・活動の相談は非常勤講師(地域のボランティアコーディネーター)及び地域のボランティアセンターと協力し実施している。
- 教員・職員・学生スタッフが担当。
- 生活福祉文化学科の教員、キャンパスミニストリー室(キリスト教活動)の教員
- 学生課、(ボランティア)サークル顧問
- 対応・掲示は学生課で行っている。他各教員が直接依頼を受けたものは、その教員で相談等対応している。
- 学事部学務課で受付後、各学科担当教員が学生へ照会
- 事務室学生係
- 教務部(担任指導)
- 依頼の内容に応じて各学科または事務サイドで対応

**Q2.「ある」との回答 … 担当窓口の担当者(SQ.2で「その他」の回答)  
a～e以外の担当者**

- 補助者(学生)
- 学生ボランティアスタッフ
- 学生スタッフ(ボランティア活動リーダー的存在)
- 学生スタッフ

**Q2.「ある」との回答 … 担当窓口の業務(SQ.3で「その他」の回答)**

- 学生の学内サークルとして結成された団体に対する助言・指導
- 学生ボランティア部等に連絡調整
- 学外からのボランティアの協力依頼を受け、学生に案内、協力要請を行う。
- 障害学生への人的・金銭的な支援。
- 送付された情報のファイルのみ(学生は自由閲覧)
- ボランティア部の指導等
- 地域安全に関するボランティアへの参加
- 学外より依頼があれば内容を確認して掲示する。
- センターとNPO・NGOとの協同による講義の開講、NPO・NGO・中間支援組織とのネットワークの構築、ボランティア受け入れ団体への情報発信支援、人材教育、組織マネジメント能力支援、地域の団体・NPO・NGOへの大学設備の提供(当センターとの共催事業に限る)、啓発活動、調査研究
- 担任(教員)が学生指導
- ボランティア関連授業の担当。
- パンフレット設置・ポスター掲示のみの仕事です。
- ボランティア希望者の把握
- ボランティア関係の授業担当
- 当該事例が発生した際対処する

**Q2.「ある」との回答 … 情報の学内提供の方法(SQ.4で「その他」の回答)**

- クラスアドバイザーから学生に通知。
- 直接本人(関係部署)に伝える。
- 研究室(事務室)への情報回付
- 内容により個別に学生に対応(演奏、学校の合唱指導等)
- 相談・登録者にTEL連絡。
- 関連する学科・先生を通じて
- 学生から問い合わせがあった場合のみ公開
- 登録者への携帯電話による一斉同報。

#### Q4.活動支援に重要な要素 … 11.「その他」の回答

- 先ずはボランティア支援の体制・組織作りが必要と思う。
- 専任のボランティアコーディネーターを配置する。(常勤又は非常勤)
- より多くの学生のボランティア活動参加を促す方策。
- 正課の単位として認定している。
- ボランティア活動を主たる目的としたクラブ設立に対する学生支援
- ボランティア講座を設け、ボランティア活動の意味を理解させる。
- 人材の確保
- 現在あるボランティア委員会の活動をより活発化する。
- 活動受け入れ先との連携
- 大学として進めていく方向性が検討されていないので、学生課としての方向性が決められない。
- ボランティア活動に関心のある学生を把握し、ボランティア推進団体との連携で得た情報を提供する。

## Q5.窓口の担当者が、課題や困難に感じていること … 10.「その他」の回答

- 交通手段のない学生が多い。
- カリキュラムが密のため、学生に時間を確保させるのが困難と思われる。
- 学生は授業科目が多く、ボランティア活動に割ける時間が少ない。
- 学生はカリキュラムの過密から、ボランティアに取り組む余裕のないように思われる。また、Q5に記載されている理由にてすべてに該当しているといっても過言ではない。
- 学生の授業が忙しい。学生に余裕がない。
- 授業時間時のボランティアは困難。
- ボランティアの内容で学生に適したものが判断しにくいことがある。
- 本学は文系の大学であるが、外国語、コンピューター、簿記を集中的に学ぶシステムをとっているため、実習的時間が多く、学校をなかなか休めない。そしてスキル上達者はSAとして後輩の指導に当たっている。また研究基礎では地域をフィールドワークとして活動し、地域との交流が深まっている。更に夕方5時から8時まで各種資格取得講座が開講され、夏期休暇中はインターンシップ、海外語学研修が実施されている。このようなことから、学生が忙しく、ボランティアに向ける時間がなかなか取れないという面がある。
- 講義や実習が多く、学生が活動する時間が極端に少ない時
- 学生が忙しく対応できない。
- 授業・実習が忙しく、学生の時間がとれない。
- 地域からの学生への過度な期待、どの層を対象に事業を展開していくか(興味がある層と興味がない層への両方のアプローチが必要)
- 関心のある学生とそうでない学生との差が大きい
- 学生自身の授業履修状況からボランティアに時間をあてることが困難。
- 営利目的に利用されたり、悪用されないか心配があり、安易に学生への情報提供ができない。
- 短大の学生は活動時間の確保が難しい。
- 学生はアルバイトを優先する傾向にある。
- 活動メニューが少ない
- 授業時間にくいこむこと。それと前問での意識の違い。
- ボランティア活動時の事故
- ボランティアの評価方法
- ①クラブ活動としてのボランティアと一般学生のボランティアとの兼ね合い②クラブ顧問の責任の範囲が不明確
- 支援体制が整っていない。
- 教職員の連携が不十分。
- ボランティア活動をしている学生を評価しようとする動きはあるが、まず、ボランティア活動の支援や相談できる専門の部署あるいは専門員を置き、体制を整えることが必要である。
- 活動メニューが少ない。
- 学生への指導体制が不十分。
- 生活の為にアルバイトをしなければならない学生が多い。交通費や参加費がかかるボランティアへは参加できない事がある。

Q6.支援に関して連絡・連携を持っている地域の機関・団体 …  
10.「その他」の回答

- 大学近隣の養護施設や介護施設・病院などでのコンサート開催など、サークル活動の一環としてのボランティア活動を行っている
- 医療機関
- 教会
- 実習先の病院や施設
- 近隣の小学校
- 本学病院や老人保健施設
- 地元手話サークル
- クラブとして社会福祉協議会・ボランティアセンターなど、ボランティア活動を育て推進する機関と連携をしている。
- 日本赤十字社(青年奉仕団)
- 高校・大学連携による単位互換性。行政、高校、市民の合同企画によるシンポジウムの開催(本年は5回目)

## Q7.活動支援に関して日本学生支援機構に望むこと … 14.「その他」の回答

- ボランティア活動相談室の運営費補助
- 連絡協議会・専門職の養成等を開催する場合、地方で行っていただきたい。学内で支援体制が出来ていない場合、遠くでは参加できない。
- ボランティアのコーディネーター機能
- 学生のボランティア活動への意識付け
- 学生向けのボランティアに関する講座や講演会等の講演者の派遣。
- 学生にはボランティア活動への理解と関心を持たせる機会を提供する。
- ボランティア団体からの情報提供
- 学生のボランティア活動への意識付け
- 各地域において学生のボランティア活動に関する意識を正確に把握する上でのネットワークづくり
- ボランティアに関する情報がいつでも得ることが出来るようなネットワークの形成は必要。

## Q9の具体的内容

- ボランティア活動に取り組む学生への資金提供が特に望まれる。アルバイト志向の学生に対して、ボランティア活動の魅力をどうアピールするかが活動の鍵を握る。担当者の苦勞するところでもある。
- 日本学生支援機構様が新生を機に大学の各ボランティア関連組織をサポートする働きを担ってくださいますよう期待しております。
- 学生によるボランティア実習の評価について、他大学の例を知りたい。また、ボランティア実習と将来のボランティア活動のきっかけづくり、動機づけにしたいのだが、その方策が分からない。学生のボランティア活動を社会が支える仕組みをつくって欲しい。
- 他大学との連携が不十分であり、今後の課題として取り組みたいと考えている。
- ボランティア担当者が兼務業務のため、情報がたくさんあっても、きめ細やかに学生に提供ができない。ボランティア経験がなく、福祉を学んだことのない担当のため学生からの質問や相談に答えられていないのが現状です。
- ボランティアに関して「やってみたい」という学生は多いものの、それにかかる費用負担(交通費など)が障害となり、具体的な行動をとれない学生が大半のようである。その壁を低くする補助金制度などが整えばボランティア人口も増えるのではないかと感じている。
- 国内外を問わず、困っている人々に対して暖かい手をさしのべるのは大変大事なことだと思います。このようなボランティア活動に積極的に取り組む学生を育てることは教育の目標の一つでもあります。その意味で、学生ボランティア活動の支援組織の役割は大変大きいものだと思います。学部学生について、過去に調査した例はないが、学外ボランティア活動に参加している(した)者がいることは情報としてあります。学科別懇談会等をとおして活動者(団体)の掘り起こし、活動支援要望の有無を調査する機会があればと思われる。
- 今の大学生はこの不況で勉強時間とアルバイトの時間で時間がとられて、ボランティア活動にまわす時間がないと思われます。ボランティア活動を正規な科目として取り入れることが必要だと思いますし、できれば中学校・高校あたりからボランティア活動の啓発活動をしたほうがよりスムーズに入っていけると思います。
- ボランティア活動は自主的な活動であり、大学や社会が経済的支援や授業での活用は、一時的な活動にはなりうるかもしれないが、持久力のある活動にはつながらないように思う。活動情報の提供や助言ができる体制を充実させたい。
- 学生のボランティア参加意識や地域住民の理解を深めるための啓発事業も必要だと考える。
- 昨今ボランティアの依頼は多いが、行い手がほとんどなく、需給のバランスが崩れている。若年層の無関心も大きな要因だが、ボランティアとはいえ適切な評価も必要ではないか。依頼者側の中には「金のかからない便利な労働力」と考えているのか簡単に集まると思っているようなフシも感じる。ボランティアの定義や理念を改めて担い手・依頼者側双方へ認識してもらうことと社会的な評価システムがあると良いのではないのでしょうか。
- 学生のボランティア活動に対する意識はとて低くボランティア活動の募集をしてもなかなか学生が集まらないというのが現状です。今後は、学生が興味・関心を持って取り組めるようなボランティア活動を行政や地域社会の方々と一体となって取り組んでいきたいと考えております。

## Q9の具体的内容

- ボランティアに関してはまだまだ一部の学生、一部の教員のみが推進している状況であり、全く興味のない教員や学生は無関心のままである。学生を直接指導する教員への認識を高める施策は何かないかといつも思案している。
- 本学でもボランティア部、手話部の学生をはじめ、個人でも様々な活動をしている学生がいます。学校としては、こうした学生の実態把握、積極的な学生評価をして行く必要があり、今後さらに活躍の場が与えられるような単なる情報提供にとどまらない、総合的な支援体制づくりを進めたいと思う。
- サービスラーニングの視点から、学生の自主的・主体的なボランティア活動を社会参加型学習科目としてカリキュラム上にのせていく方向で検討中です。
- 少し前まではボランティアサークル等があったが、講義や実習といった科目が多く、夜遅くまでやることも多々あるため、現状ではボランティア活動をするサークル等は見られなくなりました。そのため、大学としてはどれくらいの人がやっているのかは把握できていない
- ボランティアであっても資金や資材、場所、拠点が必要である。特に学生の場合、学内外の理解を広げていくことが重要であると思っています。
- 依頼側がボランティアコール無料が当然とし、依頼に来る。学生も忙しい中出向くので、交通費程度のものは負担して欲しい。
- ボランティアを自主的にやる学生がいなくなっている現状は問題である。これからの重要な課題である。
- 本学ではボランティアの関心が教職員、学生とも低いのが現状です。個人として動いているのが多いみたいです。
- ボランティア活動のメニューが少なく、学生はどこに・いつの情報を欲しがっている。
- 本学ではボランティアに対する学内組織レベルの対応はしていない。しかしながら、1万人超の学生の中には興味を示す学生も在すると思われるため、広範な情報提供は積極的に実施したい。
- 本学生とボランティアグループおよび施設などのボランティア活動を支援するということと、他大学生と共に作り上げていく機関およびその地域に対するグループコミュニティワークを展開していきたいと思う。
- ボランティアの要望が地域から多くありますが、そのすべてを学生に紹介することはさまざまな理由でしていません。
- 本学はボランティアコーディネーターがいらないため、その養成が急務と考えています。
- 乳幼児のころからボランティア精神の育成に努めることが大切である。そのためには、学校・家庭・地域がそういう雰囲気をつくっていく必要がある。
- 学生ボランティア活動支援にとって最も必要とされるのは、交通費や活動にかかる費用等の経済(金銭面)的支援です。ボランティア基金や活動支援金があれば、ボラ希望者と受け入れ先の需給調整が容易になると考えます。

## Q9の具体的内容

- 学生全体にボランティアに対する興味・関心が乏しく、活動はごく一部の学生に偏る。「自らすすんで」ということを重視するならば、単位認定という手段は避けるべきであろう。学生への取り入れは「可能な範囲で」ということで全員参加の場面も発生するかもしれない。
- ボランティアの範囲は広いので学校としては主に次の項目を重点に置いている。社会福祉施設への実習的ボランティア、地域行事等への積極的参加、サークル(社会福祉研究会、人形劇サークル)の活動支援
- 社会参加・連携の精神を養うと共に人間性豊かな人格の形成に大いに役立っている。特に当短大のように幼稚園教諭や保育士養成校にとっては役立っている。選択であるが、全員単位取得に頑張っている。
- 学内の運営体制が不十分である。単位取得のための体験実習だけでなく、活動場所を広げること考える必要がある。指導者の必要性を強く感じる。
- 前住者の後を受け、担当して初めて、ボランティア関係の情報の多いことに驚いている。今後、担当窓口を設けて活動を支援することを考えたい。
- 本学の建学の精神である、信と愛、人間尊重の精神に基づくボランティア精神の涵養とその実践は開学以来続けている。日常のチャペルアワー・諸行事を通して、自分以外の人々の要望に無償で応えるよう励ましている。ボランティア活動に対する取り組みは学生・教職員一同熱心である。この前向きな姿勢に地域社会の人から大いに喜ばれ、学生達に活躍に大きな期待がかけられている。学生達のボランティア参加は年間述べ1000人を超えている。
- 学生全体にボランティアに対する興味・関心が乏しく、活動はごく一部の学生に偏る。「自らすすんで」ということを重視するならば、単位認定という手段は避けるべきであろう。授業への取り入れは「可能な範囲で」ということで全員参加の場面の発生するかもしれない。
- 在学中のボランティア活動を単なる経験に終わらせることなく、理論と実践を学習させ、卒業後、職業人あるいは社会人となった後も、永く地域社会に貢献できる人材を養成したいと思う、それがこれからの高等教育機関としての使命である。
- ひきこもりなどの青少年にボランティアの諸情報を開示できる場所があれば良いと思います。学校組織の中よりは別なところに窓口があると良い。ボランティアはあくまで個人の判断で参加すべきもので、何らかの報酬(単位等)が与えられるのは本来的ではないと思う。ただ、それ自体は望ましいことなので、情報提供など橋渡し的なことは必要だと思う。学生のボランティアへの意識が低いので意識向上ができると良い。
- 地域社会に貢献する「学生ボランティア」については、今後大いに進展を図るような対応を望みます。
- 先進的な取り組みをしている大学に関する情報を提供して欲しい。
- 色々な外部団体が同じような研修会を実施しているが、情報が多すぎて整理されていないため、学生にスムーズに伝達されない。情報を整理したネットワークの構築を実現願いたい。
- ボランティア活動団体への資金面の援助についてお願いします
- 他大学ではどのように学生のボランティア活動を把握しているのか、そういった資料があればいただきたいと思います。

## Q9の具体的内容

- 現在、聴覚障害を抱える学生に、学生ボランティア(謝礼あり)が必修科目のノートテイクを行っている。しかし、選択科目及び軽度な障害を持つ学生に対しても支援が必要と思われる。他大学での取組みを伺いたい。
- ボランティアに関する情報が非常に多く寄せられる状況にありますが、反面学生への情報提供には内容等熟慮して、また詳細を確認した上で行う場合が多くあります。学生の力が十分発揮できるような内容と信頼性の高い情報を多く提供していただけることを希望致します。
- ボランティアに行っただけで終わらないように、学生の意識を高めるための養成講座を充実させていただければありがたいです。また、昨今NPOを名乗り、学生の個人情報を取得しようというニセボランティア団体もあることから、安心して学生に紹介できるボランティア情報を求めています。是非、そのような安全な情報の提供や不良ボランティア団体についての情報交換や提供の場を設けていただきたいと思います。
- 教職員及び学生のボランティア活動に対する関心を高める活動を積極的に行ってほしい。
- 有償ボランティアと無償ボランティアについて、多様な活動がありますが、一まとめにはできないと思いますが、学生が継続できるボランティアを考える時、有償ボランティアにならざるをえない。達成感もあり、学生にとって魅力的なボランティアとは何か教えて欲しい。
- 学生のボランティア活動に対しては、自治体・機関(NPO法人を含む)から様々な依頼があるが、ボランティア活動中に生じる事故などに対して補償制度が整備されているかが不明であり、早急に整備する必要があると思う。その上で様々な活動が活発になっていくことを期待する。
- ボランティア活動に対する学生への動機付けが一番の問題です。ゼミやサークル活動で参加する学生もいますが、全学的な意識付けはまだ不足しています。具体的方策としてどういう取り組みが考えられるのか、他団体の事例をご教示いただければと思います。
- 学外からのボランティアに関する照会・協力依頼等に相応しくないボランティアが多く、対応に苦慮している。したがって、参考になる事例集などがあれば、ご教示願いたい。また、各大学の取り組み内容も併せて提供していただければ幸いです。
- 学生ボランティアの活動を側面から支援し、環境を整えるべき立場である教育機関には、ますます期待されることが多くなっていく事を痛感している。学生の自主的かつ自発的なボランティア活動を支えるために、行政と教育機関が連係を取りながら進めていくことはもちろんだが、特に行政にはこれからも尽力いただかなければならないと思います。
- 色々なボランティア団体からの情報提供があるが、それらの団体や活動の仕方についてのガイドブックと日本学生支援機構から発行または提供してもらえるとありがたい。
- 他大学では全く下地の無いところから、どのように学生、教職員のボランティア意識付けを行い、ボランティアというものを確立したのかが知りたい部分です。
- ボランティアセンター設置への支援
- ボランティアの必要性の社会に対する啓蒙活動(ネットによる)、支援体制の充実
- 学生ボランティア活動が大学の宣伝のために利用され、強制的に授業の中で活動を強いられるようなことはあってはならないと思います。ボランティア活動と体験学習をはっきりと区別することが大切です。また、ボランティア活動を通しての学習には大きな効果があり、「ボランティア学習」を支援するところに大学という教育機関が学生のボランティア活動を支援する意義があると思います。

## Q9の具体的内容

- ボランティア活動を支援する為の業務時間が充分取れていないのが事務窓口の状況です。現在学生の活動が主となっております。
- ボランティア関係教科の他校の内容を知りたい。
- アンケートの集計結果の開示
- 学生のボランティア活動については、教職員の理解と関心がまだ薄い。広報及び情報の交換・単位取得の制度化・事故時の補償などクリアしなければならないハードルがあり、大学間の格差を生んでいる。制度として一律であるべきか、それとも大学間の格差があっているのか、今後の検討を要するのではないか。
- 本学の中期目標・中期計画において、学生ボランティア活動の現状を調査した後、支援及び指導体制を計画・実施する予定である。
- 本学ではボランティア活動に対する特別な窓口は設置していませんが、学生達の中には活動に係りたいと考えている学生あるいはすでに活動している学生がいるかもしれません。この調査を機に学生達のボランティア活動に対する状況を把握したいと思います。
- 本学では、ボランティア活動に対する特別な窓口は設置していませんが、学生達の中には活動に係わりたいと考えている学生あるいはすでに活動している学生がいるかもしれません。この調査を機に学生達のボランティア活動に対する状況を把握したいと思います。
- ボランティア活動を授業として実施するにあたり、どんな問題や課題があり、どのように対処されているか参考資料を収集したい。
- ボランティア論等の授業や課外活動を通じて、今後も学生に対しボランティア活動の周知や支援を行っていただきたいと考えています。